



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第二七七号）

夏至 六月二十一日

香取さん

六月二十四日は、志摩市磯部町にある別宮・伊雑宮の御田植式です。この日は、伊雑宮の月次祭当日で、朝から地元をはじめ、大勢の人々で賑わいます。古式ゆかしい御田植は、「磯部の御神田」として国の重要無形民俗文化財に指定され、大阪の住吉大社、千葉の香取神宮とともに日本三大御田植祭の一つに数えられています。

先日、その香取神宮へ行く機会がありました。こちらはすでに四月上旬に御田植祭は終わっています。

経津主大神をまつる本殿は、檜皮葺き屋根に黒漆塗り、極彩色の彩りが加えられ、桃山様式を残す荘厳な建物です。古くは香取神宮も、伊勢神宮と同じく二十一年に一度の式年遷宮が行われていましたが、戦国時代以降はなくなり、現在の本殿は、元禄十三年（一七〇〇）に徳川幕府によって、造営されたものです。

本殿にお参りした後、経津主大神の荒御魂をまつる奥宮へ足を運びました。旧参道沿いに百メートルほど離れた静かな森の中。奥宮は、本殿とはまったく異なる社殿でした。板葺屋根の神明造を御垣が囲む、素朴な社殿で、塗りは施されず素木のまま、ちょうど伊勢神宮の末社のようでした。昭和四十八年の伊勢神宮式年遷宮の折の古材によるものと説明書きにあります。千葉のお宮で伊勢神宮の社殿を拝見するとは思いませんでした。あたりは杉の古木が立ち、神宮一二五社にお参りするようないきなりな気分になりました。

今回の遷宮でも、東北地方の神社などに古材が下賜されていますが、この香取の地も四十五年前に譲り受けていたのです。古びた社殿は、今も大事にされて、この地に根付いていることを伺わせました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 七夕の節句

各地でさまざまなお祭りや行事がおこなわれる「七夕」。七夕の行事は二千年以上も昔に中国で生まれ、日本には、奈良時代に伝わったとされています。

おかげ横丁では、昔ながらの笹飾りを飾り、町全体で「七夕の節句」をお祝います。

と き／6月30日(土)～7月8日(日) 10:00～17:30

ところ／おかげ横丁一帯

● 手作り教室

吹き流しや編み飾りなど昔ながらの七夕飾り作りや夏にピッタリなうちわや風鈴に絵付けしていただけます。

と き／6月30日(土)～7月8日(日)

10:00～17:30(受付16:30まで)

ところ／おかげ横丁内「特設会場」

料 金／七夕飾り作り200円、てるてる坊主作り200円、
うちわの絵付け500円～、風鈴の絵付け1,200円

● 笹舟で遊ぼう

笹の葉で小さな舟をつくって遊びませんか。大人には懐かしく、子どもたちには新しい自然の遊びです。

と き／7月7日(土) 10:00～17:30

ところ／森翁館横「特設会場」

料 金／無料

五十鈴塾

○ 遷宮上人慶光院の話

五十鈴塾から神宮の方向に向かうと右側に白壁が続く立派な門構えの建物が見えてきます。門が閉ざされていて中は見られませんが、由緒ありげな高い屋根、大きな土蔵など一体何なのか、誰がお住まいなのか興味は尽きません。実はこれは江戸時代、慶光院という尼寺だったので。それもとても格式の高いお寺で朝廷から紫の衣を着ることを許され、慶光院の繪旨を賜っています。それはこのお寺の尼僧が神宮が荒廃し、遷宮もままならなかった時代に、力を尽くして遷宮を復活させた功績によるものです。それも初代だけではなく何代にもわたって尽力してきたのです。私は禁忌とされた神宮の御遷宮になせ尼僧が関係できたのでしょうか？偉大なる女性の力を山中先生にじっくりと語っていただきます。

と き／7月3日(火) 18:30～20:00

講 師／山中 一孝(豆腐庵山中代表取締役)

参加費／一般1,300円 会員800円

集 合／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

あじさい
紫陽花

羊羹のきんとんで色とりどりに仕立てた、あじさいの七変化。梅雨もまた楽しからずや、この時季の風情です。

こくとうかん
黒糖羹

黒糖の羊羹と錦玉を重ね、琥珀のような色合いに仕上げました。こくのある甘みで、ひとときの夏時間をお過ごしくださいませ。

さと はたる
里の螢

金柑の入った葛寒天で白餡とこし餡を包み、金色の螢火が描き出す情景を表現しました。